



巻頭言

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮本, 貴朗 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10466/00017917 |

巻頭言

情報基盤センター年報「情報」4号 発行にあたって

宮本 貴朗

近年の ICT 技術の進歩や組織運営における情報管理の重要性の高まり、大学の教育研究の高度化にともない、情報システムや情報サービスの役割はさらに高度化・複雑化し、ますます重要になってきています。2022 年 4 月に大阪府立大学情報基盤センターは大阪市立大学情報基盤センターと統合し、新たに大阪公立大学情報基盤センターとして公立大学法人大阪における情報基盤システムと情報ネットワークシステムを企画・構築、運用・管理し、中百舌鳥キャンパス、羽曳野キャンパス、りんくうキャンパス、I-site なんば、杉本キャンパス、梅田サテライトキャンパス等をネットワークで結び、各種の情報システムを教職員・学生の利用に供することにより、大学の教育・研究・大学運営、法人本部機能を支える情報拠点の役割を担っています。

この年報は、2021 年度に大阪府立大学情報基盤センターが実施した事業の報告、各種の企画立案・検討結果の報告、さまざまな情報システムの利用統計情報から構成されています。2021 年度は新規に導入した大規模な情報システムはありませんが、ソフトウェアの改修作業アップデート作業など、すでに導入している情報システムについての保守・運用は継続して実施してきました。

2022 年度に新大学の新しい情報システムや情報ネットワークが稼働し、半年間に渡って旧大学の各種情報システムも平行運用してきました。また、新システムへの切り替え時には、ネットワークの停止を伴う作業や、これまでとは異なる情報システムのユーザインタフェイスなどで、利用者のみならずにはご不便をおかけ致しました。

今後、新しい生活様式をはじめとする急速で多様な社会の変化にともない、これまで以上に利用の多様化が進むと思われます。大阪公立大学情報基盤センターとしての責務の重要性を再認識し、情報環境の整備、さらなる利便性の向上、運用面の改善に努めてまいります。これまでの関係各位のご協力に感謝するとともに、引き続きご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

2023 年 2 月

(編集部注：宮本貴朗教授は 2021 年度大阪府立大学情報基盤センター長でした)